

市民協働研究会 NPO・ボランティアグループとの意見交換会

【平成 18 年 10 月 19 日（木）開催分】

午後 1 時 30 分～4 時 30 分

江南市民体育会館 2 階 大会議室

市内の NPO・ボランティアグループのみなさんと意見交換会を行いました。
今回は、19 団体、28 人の方にご参加いただきました。

意見交換のテーマ

- 1) 「協働」ということに関してどのように思いますか。
- 2) 「協働」を進めるにあたってどのような課題、要望がありますか。

この意見交換会では、「協働の必要性」をしっかりと伝えることが重要であるとともに、各分野で活動しているみなさんから意見を十分引き出し、今後、いろいろな場合、場面で「協働」していくことが必要になってくるが、それにあたっての課題は何かなどを探ることが目的です。

プログラム

1. 趣旨説明（30 分）
 - ・ 小林慶太郎会長あいさつ
 - ・ 栗本明美委員からの説明
 - ・ 市民協働研究会に参加して（委員の思い）
小宮恵委員 長崎紘樹委員
2. グループ別による意見交換（60 分）
3. 各グループから発表（30 分）
4. 全体で意見交換（30 分）

[配布資料] [市民協働研究会 これまでの意見の整理
協働の基本的な考え方](#)

グループ別の意見交換と全体での意見交換から

「協働」の“目的”“イメージ”は

- ・ 協働する一番の目的は、市民みんなが幸せに暮らすことができる「江南のまち」にすること。

- ・ 自分たちの住んでいるところなら、気になっている所から協働によって直していこう。
- ・ 自ら育ってきた地域を支え合おうという思いで協働を考えたい。
- ・ 協働とは、市役所と市民とが対等の立場で協力し合うこと。どちらかへの一方通行ではいけない。双方向性が必要である。
- ・ 市役所と市民との考え方には差があるように感じるが、協働によって縮まるように思う。
- ・ 市役所に話しに行くと、それが“文句”のように思われる。本当は市役所が「協働」を理解していないのでは？



「協働」の目的の一つは“コスト削減”？

- ・ 「協働」は市役所のコスト削減だけのために進めるものではない。市民活動をコスト削減のためだけに利用されたくはない。コスト削減の思いだけでは長続きしない。
- ・ お金がないなら、ボランティアした時間をお金として使える「地域通貨」を導入してボランティア、企業、市役所をうまくつなぎ直すことも検討してみてもいいのでは？

市民の声は反映されているのか！

- ・ 市政モニターや 委員会など市民の意見を聞く場は設けられているが、そこで出た意見がどのように反映されているのか。また、その委員会などにはどのような(適切な)人が参加しているのか。
- ・ 事業の計画段階から多方面の市民の方が参加できるようにしたい。
- ・ 多様な年齢層、出身の市民の声を反映させることができるとよい。
- ・ 区、町内会や地域の団体の参加も必要である。
- ・ 自主的に活動しているボランティアグループはたくさんあるのに、市役所が理解していないのでは？ このようなボランティアが、市民と市役所との橋渡しができると思いますよ！

市民と市役所がいろいろな情報を共有することが必要！

- ・ 今回のような機会を多く作り、協働をPRしていかなければならない。
- ・ 活動している団体相互のつながりをつくっていくことが必要である。

個人情報に関して

サービスを必要としている人の情報がわからないので、しっかり活動できない。情報の保護が堅すぎるのでは？



市民と行政との協働で取り組むべき具体的な地域課題は？

- 例えば
- ・ 防犯活動や防災対策
 - ・ 子どもやお母さんたちの居場所づくり
 - ・ 外国人との共生や未就学児へのフォロー
 - ・ 江南駅前の整備
 - ・ 環境にやさしい循環型社会の構築

協働を進めていくために

- ・ 市民活動を支援する助成制度や活動場所がほしい。補助金を受ける場合は、活動の会計報告をしっかりと行うべきであり、チェックするシステムが必要である。
- ・ 市民活動を活発にするため、団体同士の交流、連携ができる機会をもっとつくってほしい。
- ・ 協働していく事業を市民から提案できるシステムが必要である。
- ・ 団体としては、ボランティアを定着させたい、メンバーの若返りをはかりたいと思っている。



[会議記録（意見交換会で出された意見の記録）へ](#)